

訪問実習感想文

○押淵医院

〈訪問診療〉

- ・病状だけでなく、生活も含め患者さんを支えることが大切だと知りました。
- ・研修医の先生の診察手順を見てとても勉強になったし、これからもっと知識を増やしたいと思いました。

○柿添病院

〈訪問診療・リハ〉

- ・今回初めて訪問診療をさせていただき、一番印象深かったのが、訪問に伺う医師や看護師が来るのを楽しみにしている患者さんが多いことです。実際に患者さんのお宅に伺うことで、日頃どんな生活をしているのかを自分の目で確認することができ、患者さん一人一人に合ったより良い医療が提供できるのではないかと思います。患者さんの中には、訪問診療の際にお料理を準備して待っている方もいるようで、医療従事者との信頼関係の強さを感じることができました。私自身、聴診させていただいたり、血圧を測定させていただき、とても緊張しましたが、とても貴重な経験をさせていただきました。送迎の際にも患者さんの家の目の前に停めるのではなく、リハビリも兼ねて一緒に歩いてあげると、患者さんの生活範囲を広げる工夫もしていました。

今回、少ない時間の中で、平戸の景色を見たり、観光をしたり、訪問診療だけではなく、リハビリのことなど、たくさんのことを学ぶことができ、貴重な経験ができました。楽しんで実習することができて良かったです。

- ・大学の前期の授業で病院実習を体験していましたが、今回、患者さんの家まで訪問診療の見学をするのは初めてであり、とても良い経験ができた。患者さんが先生が来るのを楽しみにしているようで、患者さんが皆ににこにこしていて、とても良い雰囲気だと感じた。

訪問診療は、患者さんの住む環境がよく分かるというところも良いと思った。聴診器を使ったり、患者さんと接することは思っていたよりも難しかった。あまり、自分から積極的に話すことは緊張して出来なかったが、患者さんはいつもにこにこしていて、フレンドリーに接してくださったので、とても楽しかった。

また、先生方からためになるお話もたくさん聞くことができた。専門的な話は難しかったけれど、医療の勉強に対して意欲がさらにわいた。4時間でとても多くのことが学べた。

- ・2件の訪問診療先で、お会いした患者さんがとっても可愛いらしい方々で、たくさん笑顔をもらえたのが印象的でした。

お医者さんが来てくれるのをすごく喜んでくださっていて、楽しみにしてくださっているのが嬉しく感じました。

看護師さんが道を知っていたりご家族のことまで把握していらっしやって「武器は看護師さん！」といていたのが印象的でした。

送迎も、家の前まで送るのではなく、公民館などまで送り一緒に歩いて家に行くことで、生活範囲を確保（広く）するというところに、「なるほど！」と思いました。

実際にご家族とお会いし、お家や雰囲気をすることは大事だと感じました。

平戸の風景も見ながら行けてとても楽しかったです！！

- ・祖父を在宅で看取ってもらっていたのですが、実際の訪問診療を見るのは今回が2度目でした。1度目は医と社会での病院見学でしたが、祖父が亡くなる前のことだったので、在宅で医療を受けるということを意識して見学できたのは今回が初めてです。

訪問診療において看護師の存在は不可欠であり、医師に言わないようなことも患者さんがこっそり看護師に教えてくれることや、その日訪問する患者さんの情報（病気以外についても）を看護師が把握しているということを聞いて、病棟以上にもしかすると看護師が大切なのかもしいないかと思いました。医療の現場を見れば見るほど、看護師をはじめ、メディカルスタッフとの連携が大事だと思うようになりました。

今回、ケアホームの患者さんも通所リハの患者さんも細やかな方が多くて驚きました。これも診療所のスタッフと患者さんとの信頼関係ができていないかと思いません。

〈訪問看護〉

- ・ニーズに応えるというのは制度ではもちろんですが、スタッフさんの意識が支えているのだと感じました。

また、在宅訪問では患者さんだけでなく、ご家族と話すことの大切さ、その話を否定しないが患者さんの言うことに無条件で従うことはしないという態度を学ぶことができました。

短時間で6ヶ所もまわられた経験ははじめてでした。ハードとしては似ていてもどういったところで差を付け、多様なニーズに対応しているのかを見ることができ貴重な経験でした。

- ・1件目では、御主人が奥様の介護をなさっている。自宅を奥様仕様に新築され、日当たりの良い場所に介護ベッドを置き、TVも見やすい位置にして、ご夫婦一緒にTVを観られているとの事。また、毎日、リハビリのために切り絵の作成に勤しんでおられ、完成品を拝見した。更に、御主人が「介護をする事は体力的にも辛い」と話されていたが、その辛さを微塵にも出さない気持ち、姿勢に不覚にも泣いてしまった。

2件目も1件目と同様に御主人が奥様の介護をなさっている。今までは、市外に居住されていたが、奥様のために平戸市内に新築住宅を構えられた。家へ伺うと至る箇所に手すりが設けられ、同行（案内）してくださったケア・マネージャー曰く「入浴時の設備は最新のもの」との事。当日、御主人が「歩行器を購入/レンタルして自宅でもリハビリを行わせたい」と相談していた。ケア・マネの方が、「歩行器を使用する時は、お父さん（御

主人の事)はずっと付き添っていかなきゃいけないけど大丈夫？」という問いに、御主人は「そんなの当たり前だよ。解っているよ。」と、間髪入れずに即答された。東京なら絶対に5~10秒程度のタイムラグが生じる。奥様を思いやる気持ち、優しさ、温かさなどを備えた御主人を選んだ奥様が羨ましく感じた。

グループホーム「かぶとむし」は建物がL字型になっており、9人ずつ分けられて共同生活を送られている。職員の方々と食事を作ったり、洗濯、掃除など分担し、庭には家庭菜園のような場所が在り、スイカや玉ねぎなどを作り、それが食卓に並ぶ。更に、毎月、お誕生日会が開かれ、季節毎の催し物(e.g 流しそうめん大会)も開かれている。不適切な言い方ではあるが、幼稚園/保育所での内容に、生活(居住)が加わった印象を受けた。

平戸みどりが丘ケアホームは、外観がアパートに似た様式に驚いた。食事をしながらリハビリなどの訓練も行い、生活様式が学生寮の生活スタイルに似ていると感じた。

ディサービス「とかじん」は認知症の方々に専門的なケアを行う施設で、伺った時は、皆さんが帰られる時だった。認知症の方々が食事を摂り、入浴を済ませ帰宅するシステムは“日帰り温泉旅行”さながらの様に感じた。

患者さんを拝見する限りは、日常生活に近く、本人の努力次第では病を克服することが可能なのでは？と思えた。

患者さんの家族が外出する用事があって家に置いていけないという時に活用するにも一つの方法だと感じた。患者さん自身が、このようなサービスを受けるまでに時間、家族間の葛藤が生じる事が起こり得るので、この問題を解決(サービスを受ける事)出来る窓口があれば良いのでは？と思った。

通所リハビリテーションディケア「毎快」では、生活機能向上のための機能訓練がスポーツジム(スポーツセンター)に設置されている器具とほぼ同じであることに驚いた。ただ、ケア・マネ曰く「スポーツジム等の施設には無い病院のリハビリ施設にある設備が“筋力トレーニング⇨生活機能向上のための機能訓練”という図式になる」とのこと。送迎は「毎快」の方が担当しており、私が最も身近に感じられる介護だった。

○青洲会病院

〈離島医療〉

- ・フェリーで大島という離島へ向かいました。内容としては大島診療所と的山出張所での診療でした。診療所では常駐の医師の方はいらっしやらなかったのですが、代診の方から説明をきくことができました。

印象に残ったのは電子カルテについてのお話です。まだカルテは電子化されておらず、今も紙を使用しています。1日あたり15~20人ほどの患者であれば紙のカルテでもやっていけるということは納得できます。その一方で医療のIT化が促進される中で、離島のような高度医療を中々実施できない環境にある患者さんのカルテを電子化し、クラウド化することはますます求められるのではないかと思います。長崎は特に離島が多いこと

で有名な県です。このような医療の IT 化が進むかどうかが医師個人にゆだねられている部分も少なからずあるのではないかと考えました。

大村市民病院からヘリで医師が移動できるシステムがあることを初めて知りました。

- ・初めて小型の船で移動したので、酔うのではないかと不安でしたが、思ったよりもスピードが速くて、とても快適でした。

大島は、街並みがとてもきれいで江戸時代の建物が保護されていたり、新しい建物も周りに馴染むように造られていて、一昔前にタイムスリップしたようでした。農業や漁業中心の生活ということで、突然動物が現れたり、田畑の作業をしたりしている姿が見られて、とても面白かったです。これが昔はどこでも見られた風景なんだろう、と改めて思いました。

大島見学の後に診療所見学をさせていただきましたが、時間の問題などもあり、実際に島に住んでいる方のお話を聞けなかったのが少し残念でした。でも先生のお話がたくさん聞けてよかったです。

島の人々の暮らしとその中で病院の位置づけというものがよく見えた実習だったように思います。大島はきれいで行くことができ良かったです。

- ・今回初めて離島の診療所・出張所を見学しました。普段、実習をしている長崎の大きな病院とは違い、紙のカルテを使用し、薬局もなく、設備が充実していることは言えない施設でした。

水谷先生の話ですごく心に残っていることは、島の人たちは同じ先生に長く診てもらっていて、同じ薬を長年使っていたりするから、例えその薬が必要ではなくても薬を処方したりすることがあるということです。まだ、医療の現場に立つ機会がない私にとっては衝撃的な話でした。

今回、来られていた水谷先生は代診の先生だったのですが、常駐している先生と島民の人たちはすごく距離が近いのではないかなと思いました。

- ・大島へフェリーで渡り、診療所や出張所をまわりました。予想していたよりもゆったりとした雰囲気だと感じました。診療もとてもアットホームな感じで行われており、とても魅力的でした。
- ・大島という小さな島に実習に行きました。そこでは1日当たり20~25人の患者が診療に来ており、その多くは農作業によるケガが多いということを知りました。

また、診療所はもともと公民館であった建物を再利用しており、病院という感じがなく、医師と患者との距離が近いなと思いました。

今回の実習で地域医療の現場を実際に見ることができて、とても良い経験になりました。

○平戸市民病院

〈訪問診療〉

- ・患者さんとの関係作りのため、挨拶、表情、ボディランゲージ、スキンシップ、その各々に工夫をこらしていることに沢山のことを学ばせて頂きました。

自宅にいる患者さんには、ゆったりとした時間が流れているように感じました。長年住み慣れた家、日常の風景や音、そして連れ添った伴侶にケアを受けることで、患者さんは日常の中で養生していけることがその穏やかな時間を生み出しているように実感しました。

- ・前期の間、毎週1コマ地域医療についていろんな方のお話を伺ってきて、その上での実習だった。私は2件の訪問診療について行かせていただいたが、どちらもお宅も山の中の狭い不便な道を行った先にあり、体が不自由になってくると、自分で病院まで通うというのはなかなか簡単ではないだろうというのが目にみえて分かった。そういう病院までの交通の便がよくないような土地では訪問診療というのは、患者にとっても医師にとってもいい部分があると思った。
- ・私は中桶先生たちと訪問診療に行きました。訪問診療というのは、個人的には末期の患者さんに行っているものであり、あまり楽しそうなイメージではなかったのですが、とても明るい患者さんや家族の方々ととてもびっくりしました。

特に印象深かったのは「こんなに先生の来てくれたら元気になっちゃう」という言葉で、それを聞いて本当に来て良かったなと思いました。

- ・二人の方の訪問診療に行きました。一人目の方は、以前に急性硬膜大血腫を患い、手術を受けた方でした。その方は手術の際に感染を起こしてしまい、頭蓋骨に空けた穴をふさぐことができず、絆創膏でその穴を塞いでいる状態でした。そこに膿ができていて、医師の方は病院へ行くことを勧めてしまいましたが、患者さんはそのことを拒否していて、そういうとき、どう折り合いをつけていくのか、どこまで患者さんの意志を尊重するべきなのかなと感じました。二人目の方は明るく元気な方で医師との会話も楽しそうにしている様子を見ているだけで元気がもらえました。

地域医療は、医師と患者の距離が本当に近いんだなということを改めて感じました。

- ・問診や身体診察をさせていただけた。患者さんだけでなく、ご家族とお話をさせていただけたのが有意義でした。

実際に患者さんを診させていただくことで、普段勉強していることがまとまる気がしました。

〈訪問看護〉

- ・訪問看護で訪問した患者さんは、脳梗塞で20年以上寝たきりになっているおじいさんであったが、床ずれは直径1cmほどしかなかった。以前は直径10cmほどのときもあったらしいが、看護師と家族が協力してやった結果、改善できたそうです。

家族の協力を引き出すことが大事だと思いました。

〈通所リハビリテーション〉

- ・初めて患者さんと1対1で話をしました。病歴や家族構成、趣味の話や悩んでいることなど事務的なものではなく、普通の会話を楽しむことができました。

4人の患者さんと話をしたのですが、その中で感じた共通点があります。それは、4人ともみんな、「自分のことは自分でしなきゃいけない」ということを言っていたことと通所リハへの依存です。通所リハができて、まだ日が浅いとのことでしたが、患者さんにとってなくてはならないものになっているように感じました。

- ・今回はじめて地域実習に参加させていただきました。通所リハビリテーションを見学させていただいたことで、利用者さんたちのお話をきくことができたり、平戸の良さ、リハビリのありがたさなどを知ることができたのはもちろん、医療だけでなく、福祉や介護の視点から現状や現地の人たちの生活や問題を見ることができて、とても勉強になりました。

また今回の合宿を通して、医療技術を重視した大学病院ではほとんど目にすることができない、医療者と住民の方たちの信頼関係を体感することができたと思います。講義の中でも信頼関係がないと医療はできいと文字では学びましたが、平戸の先生、住民の方々を見てみると、便利な生活とはいいいがたい中でも、信頼しあい、助け合えているから、このように素晴らしい環境ができているのではないかと感じました。